

広報

こだま

2010
Vol.2



老人性認知症疾患治療病棟・デイケア施設「マロン」

有朋会・理念

- 1 私達は、明るく開放的な雰囲気をつくり、様々なこころの悩みに応えることができる法人を目指します。
- 2 私達は、患者様、利用者様一人一人を尊重した支援を行い、共に歩んでいきます。
- 3 私達は、情熱と誇りを持って質の高い医療・介護を提供します。



医療法人社団 有朋会
栗田病院

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505
TEL: 029-298-0175

E-mail: yuhokai@yuhokai-kuritah.com
URL: http://yuhokai-kuritah.com

ご 挨 拶

院 長 栗田 裕文



医療法人社団有朋会、栗田病院の院長の栗田です。今年もよろしくお願い致します。

医療法人有朋会は、

1. 「こころ」の病気の外来～入院医療
2. ◎「こころ」の病気の地域生活支援

3. 認知症ケア&サポート

の3つの柱による「こころ」のケアの提供を通して、地域の「こころ」の医療・介護の向上を目指しています。

私たち有朋会のスタッフは、「私たちが、この地域の「こころ」の医療を支えるんだ」「私たちが、この地域の「こころ」の健康を守り、向上させるんだ」と、そんな自負と情熱を持って日々邁進しています。「こころ」のケアを提供する機関としてもっとも大切なことは、その人の「こころ」に温かなあかりを灯すことだと感じています。

その人がほっと安らいだり。ホットな熱い気持ちが湧き上がったり。そんな気持ちになれるための援助や支援、応援が、私たち有朋会スタッフの使命です。

まだまだ、力が十分ではないところはあるかも知れません。地域の皆様と共に手を取り合い、手を携えながら、一緒に歩んでいければ嬉しいです。

副院長 安部 秀三



本年も医療分野の変化はますますスピードアップしていくと思います。地域の方々、いつも連携していただいている諸機関の方々どうぞ本年もよろしくお願いします。

年初の挨拶にあたり当院の診療部門の担当者の1人として現状をお伝えいたします。当院は従来から統合失調症を中心に診療・社会復帰活動をすすめてきましたが、最近では認知症のほかうつ病を中心としたメンタルヘルスの問題にも積極的に取り組んでおり、周辺のクリニック・病院などから依頼を受けています。

また診療活動のみならず、この領域についての啓発活動、相談活動や将来の精神医療福祉などを担う人材育成なども取り組んでいます。

私は精神医療に携わるものとして、当院職員はもちろんのこと地域の方々も精神的な問題についてもっとオープンに前向きになってほしいと考えます。いまや認知症やうつ病などはごく身近な問題と言えるでしょう。その身近な問題が従来のように「特別なこと」「家族の中で隠されてしまうこと」の位置づけのままであれば解決できることもされず、さらに問題が大きくなってしまいます。精神疾患も一般科の疾患と同様な認識が実現できるよう当院の一員として取り組んでいきたいと思っています。

創立42周年記念式典

平成21年10月、医療法人社団有朋会は創立42周年を迎えることができました。それを記念し、去る平成21年10月28日に創立記念事業とし、記念式典、記念講演、症例発表会を行いました。

記念講演では、国立病院機構霞ヶ浦医療センター 越藤留美子先生をお招きし、「医療安全活動に関して～医療安全とヒューマンエラー・当院の取り組み等～」という演題でご講演いただきました。越藤先生が行われている取り組みを具体的にお話いただき、今後の当法人での医療安全活動において貴重な時間となりました。



理事長による式典挨拶

症例発表会では、茨城県立医療大学保健医療学部看護科 糸嶺一郎先生をお招きし、ご講評、ご指導をいただきました。

症例発表は今年で15年目をむかえ、毎年、病院部門、社会復帰施設部、介護事業部といった法人全体の様々な部署、職種から発表が行われています。今年は全9題の発表が行われ、活発な意見交換が行われました。糸嶺先生からは各症例発表に対し、ご丁寧なご講評をいただきました。

症例発表会は、発表者はもちろんのこと、スタッフ1人ひとりが日頃の医療やケアを振り返り、専門職として自分自身を磨く大切な機会となっております。

スタッフ一同、糸嶺先生に頂いたご指導を各職場に持ち帰り、新たな気持ちでケアに励んでおります。



糸嶺先生による講評

創立記念式典2 ～創立記念事業の症例発表に参加して～

症例発表：怠薬の多かった利用者の服薬に対する意識の経過



生活福祉部デイナイトケア課 精神保健福祉士 蛭田 良一

今回、このような機会を頂いたので、研究する中で自分が感じたことを述べさせていただきたいと思います。

私の研究の一端で、利用者様の過去のカルテを読み直すことができました。過去のカルテを読み上げていくことは、利用者様の歴史の一端を知ることが出来たような気がしました。「何故、この方はこのような思いがあるのだろうか？」このような前々からあった疑問を過去の利用者様と現在の利用者様を照らし合わせることで、

改めて利用者様の背景を知ることが大切であると学ぶことができ、利用者様の思いをより一層分かりたい、と考えるようになりました。

日常業務の中で研究をまとめていくことは、少々力が入りますが、利用者様の想いの理解を深めること、日頃の利用者様との関わりを見直すことになると思います。



症例発表：自立支援法 新事業所くりの実について

～施設移行にあたっての効果と課題～

自立訓練（生活訓練）事業所くりの実 精神保健福祉士 西田 祐子

今回の症例研究では、くりの実新事業の概要や効果について発表させて頂きました。発表を通して、利用者様の持つ力や前向きな変化を改めて見つめ直す機会となり、新たに作りだしてきたプログラムや支援について、スタッフ一丸となって取り組んできた効果を感じることが出来ました。

また、他部署における様々な取り組みについての発表を聞き、常に作

り出し、チャレンジすることの大切さを実感しました。

今後の活動として、まだまだ課題とする点は多くありますが、より専門性を深めたアプローチを行い、他部署や関係機関との連携を強めながら、一人でも多くの利用者様・ご家族様の社会復帰支援を行っていきたいと思います。



サクラ病棟案内

サクラ病棟（急性期治療病棟）は、精神症状の急性期に集中的な治療を行う事により3ヶ月以内での退院を目指す短期集中治療病棟です。

精神科の急性期には、興奮、混乱、混迷、拒絶といった症状がみられ、従来、このような症状を呈した患者様は、刺激を少なくし鎮静を待つ治療を受けてきました。その結果、患者様の自尊心を奪い、快方に向けての希望をも奪ってしまうことが多く、入院期間の長期化を招いていました。

また、再入院する割合も高く、入院治療により改善しても一時的なもので、退院後に治療が中断し再燃するケースも多くみられます。

その原因の1つとして、患者様と家族への情報提示が少なく、医療側に依存傾向であることがあげられます。

サクラ病棟では改善を図るため、患者自身の積極的な治療参加意欲を高めるべく、さまざまなプログラムを多種職連携して展開しております。

具体的なプログラム内容として、心理教育（サクラセミナー）、PSミーティング（患者・スタッフミーティング）など実施しています。どちらのプログラムもスタッフから患者様への指導や助言を一方的に説明するのではなく、同じ境遇にある他入院患者の意見や体験談を交えて実施しています。それにより、自己の体験を客観的に振り替えることが出来る等の変化もみられています。

今後は患者様だけでなく、その家族を対象にした心理教育プログラムの実施を視野に入れ、退院後の生活を意識した援助を提供できるよう取り組んでいます。

サクラ病棟看護師長 藤田 智則

院外研修 ～第2回多職種協業に向けた支援機能ワークショップ～

今回、平成21年11月8日（日）に水戸市福祉ボランティア会館にて開催された「第2回多職種協業に向けた支援機能ワークショップ」に参加させて頂きました。

テーマを「認知症リハビリテーションと家族支援」と題して、作業療法士やケアマネージャーによる講演や事例報告が行われ、活発な意見交換となりました。当日は、リハビリ職種やケアマネージャー、看護師、介護士等の医療福祉・介護関係者の他、当事者のご家族の方々も含めた約120名が集いました。その中で、私自身も「当院における認知症リハビリテーションの取り組み」として講師を務めさせて頂きました。



当院（主に認知症デイケア）の特徴や独自で実施しているプログラム等を紹介する貴重な機会でした。また、それらに興味を示して頂いた参加者も多く、非常に有意義な交流を持つ事が出来ました。同年5月24日の第1回開催時にもポスター発表で参加しましたが、回を重ね、より多職種間の連携の高まりも感じました。今後も、近隣の病院や施設、地域の方々とのネットワークの充実を図り、実績としての「協業」へと繋げて行きたいと思えます。

マロンデイケア 作業療法士 大内 康雄

外来担当医一覧表

＝内科

	診察室	月	火	水	木	金	土
午前	1 診	安 部	飯 嶋	安 部	栗 田	鈴 木	水 挽
	2 診	藺 部	片 野	遠 藤		堀	藺 部
	3 診					太刀川	第1,3,5 吉川 第2 鈴木 第4 安部
午後	1 診	栗 田				第2,4 鈴木 もの忘れ外来	休 診
	2 診		袖 山	伊 藤	伊 藤	第1,3,5 鈴木 第2,4 安谷屋	
	3 診		佐 藤			中 村	
	5 診						

受付時間 午前 8:00～11:30
午後 11:30～15:00
診察時間 午前 9:00開始
午後 13:30開始

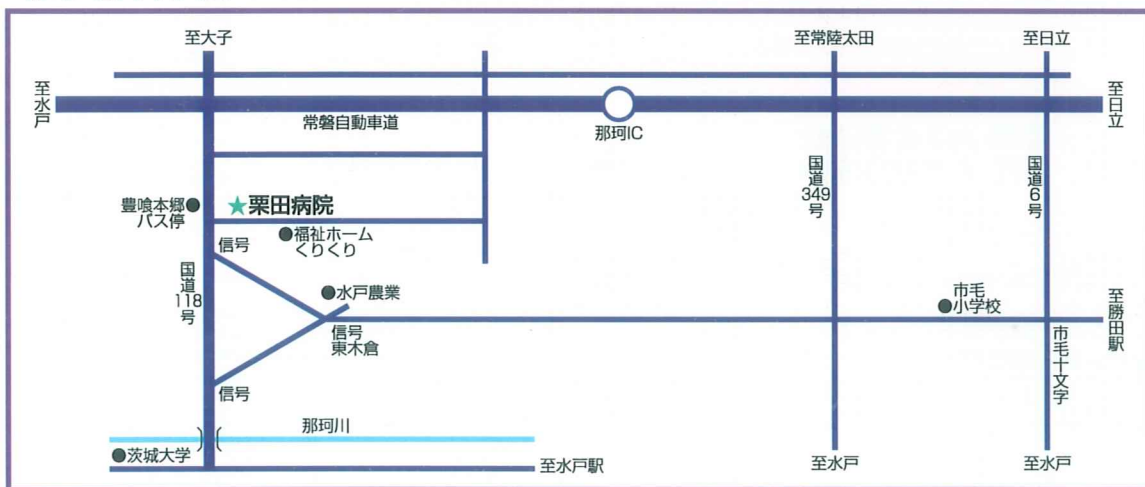
*精神科外来は**完全予約制**になります。
*当日のご予約は**行っておりません**。前日までにご予約をお願い致します。

予約電話対応
月～土（祝日を除く）
9:00～17:00
TEL 029-298-0175

初めての外来受診・入院を希望される方へ

1. 電話で患者様の情報や現在の状況をご相談下さい。
 2. 次にケースワーカー（相談員）が詳しく話を伺い、その後ご予約をお取りします。
- *現在、他病院を受診している、もしくは受診していた場合は紹介状が必要です。
*当日の状況により、予約内容が変更になる場合がありますので予めご了承ください。

【アクセスマップ】



水戸方面から

- ① 水戸駅北口から国道50号線を笠間方面へ。
- ② 大工町警察署のある交差点を右折。
- ③ セブンイレブンのある交差点を左折。
- ④ 国道118号線・常陸大宮方面行きの標識があるので、その信号を右折。
- ⑤ しばらく進むと到着です。

ひたちなか方面から

- ① 市毛十字路を水戸方面の場合は左折、日立方面の場合は右折。
- ② しばらく進み、国道349号線（デイリーヤマザキのある交差点）を超え、更に進むと国道118号線のT字路に当たる。
- ③ T字路を右折し、しばらく進むと到着です。

*ご不明な点が御座いましたら下記の電話番号までご連絡ください。

TEL 029-298-0175